

第1学年 国語科学習指導案

指導者 塚田 真紀子

場 所 1階1年教室

1 単元名 「おむすびころりん」

2 単元目標

- ・むかしばなしに興味をもち、工夫して音読しようとしている。 (関・意・態)
- ・語や文としてのまとまりや内容、文章のリズムに注意しながら声に出してよむことができる。 (読ア)
- ・場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。 (読ウ)
- ・昔話の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすることができる。 (伝国ア (ア))

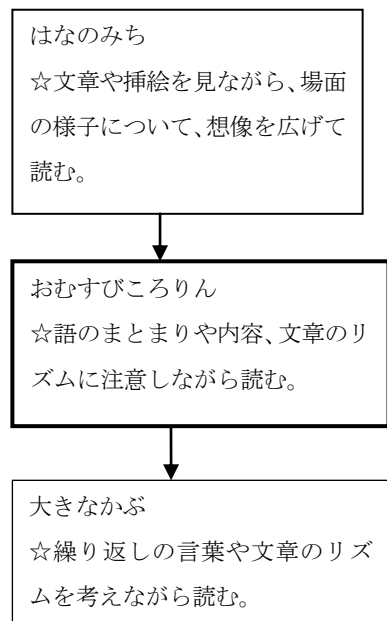
3 指導にあたって

(1) 教材観

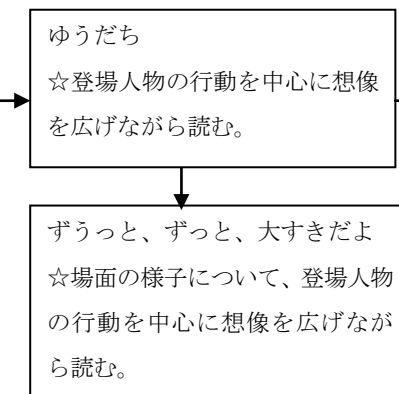
「おむすびころりん」は、優しいおじいさんが、ねずみたちとの出会いで思いもよらぬ幸せがやってくるお話である。思わず声に出したくなる七五調の語りや難しい言葉がほとんどない文章は、楽しく体を動かしているうちに話の展開や情景を想像することができる。低学年は、挿絵を楽しみながら声に出して文章を読むことが好きである。繰り返される言葉のおもしろさは、「おおきなかぶ」へとつながっていく。多くの擬態語が使われているので、自然にリズムよく読むことができる。登場人物も限られていて分かりやすく、その様子を想像しやすく楽しみながら叙述に即した読みができる教材である。また、人物を通して人のやさしさを感じとらせたり、いろいろな日本の昔話の世界に児童を導いたりするのにも適した教材である。

<単元の系統> (☆…読むこと)

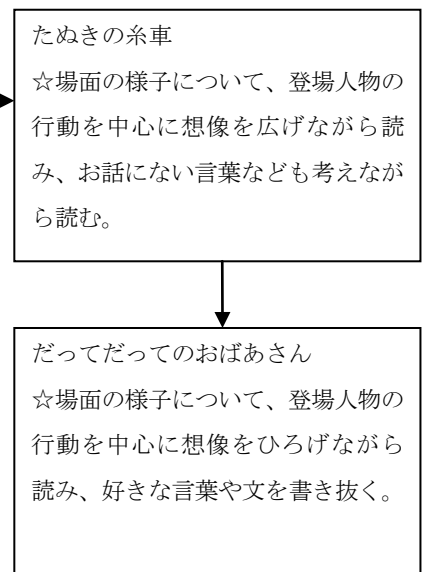
1 学期



2 学期



3 学期



(2) 児童観

1年生は、読み聞かせや読書が好きである。挿絵を楽しみながら、絵本の世界に浸っている姿が見られる。全校の本の紹介の取り組みを経験してからは、お気に入りの本の好きな場面の絵を描いている様子も見られる。「はなのみち」では、くまさんを中心にして、文章や挿絵を見ながら場面の様子について想像を広げて読むことを楽しんだ。「くちばしクイズ」の学習後、図鑑や動植物の本を読む児童も増えてきた。

「あいうえおであそぼう」では音読を楽しんだ後、語のまとまりや内容を考えて「飯田小あいうえおであそぼう」を作った。どの児童も繰り返し音読をしてリズムを感じ取ったり、言葉のおもしろさも楽しんでいた。「おさるがふねをかきました」でも、おさるの気持ちになってことばのまとまりに気をつけながら読んだ。「なんていったらいいのかな」では、場面に合った会話を考え、その簡単な理由を話す学習をした。

どの児童も自分なりの考えを持って発言し、少しずつだが「わけは、～です。」のように理由をつけて述べるようになってきている。しかし、相手に言いたいことを伝えようとする気持ちがまだまだ十分ではないため考えが広がりにくい。友だちの考えに対しては、「同じです。」「ちがいます。」は言えるが、それを受けてもう一度考えることはまだむずかしい。そのため、自分の考えを書いたりペア学習で話したりして自分の思いを伝える取り組みを始めている。

(3) 指導観

本単元「おむすびころりん」は、初めて出会う昔話である。ここでは、語のまとまりや内容、文章のリズムに注意して読み、場面の様子や登場人物についても想像を広げながら読む力をつけたい。そのため、単元を貫く言語活動に「音読発表会」を設定した。昔話らしい挿絵や語りに出合わせて、おじいさんや登場人物とのかかわりに心を向けさせる。また、おじいさんの独り言からお話の展開をつかませ、聞こえてくるねずみたちの歌に引き込まれていくおじいさんの気持ちの変化を読み取らせたい。リズムよく音読することにより、繰り返される言葉や擬人法などから言葉のおもしろさを感じ取らせたい。お話の展開やそこから想像したことを表現させるために、声の強弱・速さや表情などを工夫し、聞き手を意識した音読をさせる。音読発表会では、音読と動作化を中心におじいさんとねずみ・おじいさんとおばあさんなどの登場人物になりきって、驚いたり喜んだりする様子を表現させたい。衣装や小道具なども用意して雰囲気づくりも大切にして物語の世界に浸らせたい。また、並行読書では、いろいろな昔話の本を紹介し、その中から自然に児童が好きな昔話を選んで楽しむ読書をさせたい。

本校の研究の関わりとして、本単元では、登場人物を中心に場面のおもしろさやお話の展開を想像豊かに楽しんで読む学習をさせたい。一人ひとりが登場人物の行動や会話や心情の変化などを語り手として表現できるようにさせたい。そのためには、1年生なりに好きな場面や登場人物や表現を選んで、簡単な理由をもとに自分の考えを伝えることができるようにしていきたい。

4 指導計画と評価計画（総時数7時間）

時	次	目標	主な学習活動	評価規準（評価方法）	評価規準		
					関	読	言
1	一	○楽しんで話を読み、音読発表会を開く見通しをもつことができる。	・ 範読を聞いたり挿絵を見たりして「おむすびころりん」の話の筋をとらえる。 ・ 音読発表会を開く見通しをもつ。	・ 範読を聞きながら大体の内容をとらえて楽しんでいる。 （態度） ・ 音読発表会を開く見通しをもとうとしている。 （発言）	○		
2	二	○場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。	・ おじいさんの様子や気持ちを想像しながら音読する。	・ おむすびを追いかけるおじいさんの様子を想像しながら音読している。 （発言・音読）		○ ウ	
3		○場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。	・ おじいさんとねずみの様子や気持ちを考えながら音読する。	・ ねずみの歌を聞いて喜ぶおじいさんの様子を考えながら音読している。 （発言・音読）		○ ウ	
4		○場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。	・ おじいさんとねずみの様子や気持ちを考えながら音読する。	・ おじいさんを歓迎するねずみの様子を考えながら音読している。 （発言・音読）		○ ウ	
5		○場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。	・ おじいさんとおばあさんの様子や気持ちを想像しながら音読する。	・ おじいさんとおばあさんが喜ぶ様子を想像しながら音読している。 （発言・音読）		○ ウ	
6		○語や文のまとまり内容、文章のリズムに注意しながら音読することができる。	・ 場面の様子や登場人物の気持ちを考えて、音読や動作を工夫する。	・ 語や文のまとまり内容、文章のリズムに注意しながら音読しようとしている。 （音読・動作）		○ ア	
7	三	○昔話を、想像を広げながら楽しんで読むことができる。	・ なりきり音読発表会を開き、場面の様子や登場人物の気持ちを考えて、せりふや動作を入れて楽しむ。	・ 昔話を、想像を広げながら楽しんで読むことができる。 （音読・動作）			○ ア

5 本時の学習（第二次の2時）

- (1) ねらい 場面の様子や登場人物について想像を広げながら読むことができる。
- (2) 評価規準 **読** ねずみの歌を聞いて喜ぶおじいさんの様子を考えながら音読している。
- (3) 準備 挿絵、おじいさんの衣装
- (4) 展開

過程	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・ 評価◎ 支援○
<p>つかむ (7)</p> <p>考える (13)</p> <p>学び合う (20)</p> <p>まとめる (5)</p>	<p>1 登場人物を確かめる。</p> <p>○お話に出てくる人はだれでしょう。</p> <p>・おじいさんだよ。・おばあさんだよ。・ねずみだよ。</p> <p>2 課題をつかむ</p> <p>課題 でてくるひとはなしたことやようすをよもう。</p> <p>3 P60,61 を音読する。</p> <p>4 挿絵⑤からおじいさんの気持ちを考える。</p> <p>○おじいさんはどんな気持ちで踊ったのでしょうか。</p> <p>・たのしいなあ。・おもしろいうただなあ。</p> <p>おむすびころりんすつとんころころころりんすつとん</p> <p>○おじいさんが話した言葉をみつけましょう。</p> <p>・「これは これは おもしろい。」</p> <p>○おじいさんは、何がおもしろいのでしょうか。</p> <p>・おむすびをころがしたから。</p> <p>・あなから、ねずみのこえがきこえたから。</p> <p>5 音読の仕方を工夫する。</p> <p>○どんな読み方をしたいですか。</p> <p>・「これはこれはおもしろい」 おじいさんらしく</p> <p>・ころんころがすと ころがすみたいに</p> <p>・きこえるきこえる 2かいめをつよく</p> <p>・うたにあわせておどりだす おどりたくなるよう</p> <p>おむすびころりんすつとんころころころりんすつとん</p> <p>6 音読する。</p> <p>○考えた読み方をつかって読みましょう。</p> <p>・おじいさんのこえでよんだよ。</p> <p>・おむすびがころがるようによんだよ。</p> <p>・ねずみがうたっているみたいによんだよ。</p> <p>7 学習のまとめをする。</p> <p>まとめ おじいさんになって でよんだ。</p> <p>ねずみになって でよんだ。</p>	<p>・単元を通して、登場人物を「出てくる人」で通す。</p> <p>・全員で音読する。ここでは、読む工夫は求めない。</p> <p>・挿絵のおじいさんの様子に目をむけさせて、おじいさんの表情をつかむ。</p> <p>・踊っているおじいさんの動作のまねをさせて、おじいさんの気持ちに同化させる。</p> <p>・会話文を見つけて「 」をつけさせる。</p> <p>・「おもしろい」からおじいさんの言葉や行動に着目させる。</p> <p>・おじいさんがねずみの歌を聞いたがっていることに気づかせる。</p> <p>・言葉で上手に表現できない児童が、「こんなふうにして」と動作で表すことを認める。</p> <p>◎ねずみの歌を聞いて喜ぶおじいさんの様子を考えながら音読している。</p> <p>(発言・音読)</p> <p>○おじいさんが喜んでいる様子に気づきにくい児童には、挿絵のおじいさんの表情や動作、言葉・文に注目するように促す。</p> <p>・音読を工夫した理由を話させる。</p> <p>「だって、～だからです。」や「…で読みたいから」などの言い方で伝えさせる。</p> <p>・児童の気づきが少ない場合は、教師が上手なところを紹介して、その工夫や理由を伝えさせる。</p> <p>・おじいさんやねずみたちの気持ちになりきって、音読を楽しませる。</p> <p>・ねずみの立場でまとめた考えも大いに認める。</p>

(5) 筋道を立てて説明するための本時の位置付け

付けたい力	教師が求める説明	支援
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちになって想像を広げながら、昔話らしく読む力。 	<ul style="list-style-type: none"> 昔話らしく読むための工夫について、簡単な理由を添えて話すことができる。 「だって、～だからです。」 「～みたいによみたいからです。」 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵と言葉や文を対応させて読ませる。 理由を述べる話型を示しておく。

(6) 板書計画

